

羽曳野市立学校・幼稚園の耐震化の状況について

現在、本市では園児・児童・生徒の安全、安心を最優先と考え、耐震化事業を重点事業と位置付け、耐震化率100%を目指し、その取り組みをすすめています。

令和7年4月1日現在の状況について、耐震性能総括表などにまとめましたので、お知らせいたします。

羽曳野市立学校・幼稚園の耐震性能総括表

(令和7年4月1日現在)

	学校・幼稚園数	全棟数 ア ※1	耐震性能					耐震化率 % A/ア
			新耐震基準または新耐震基準と同等の耐震性能を有するもの			新耐震基準または新耐震基準と同等の耐震性能を有しないもの		
			A			B	C	
			新耐震	補強済	補強不要			
			棟数	棟数	棟数	棟数	棟数	
小学校	13	63	23	34	6	0	0	100.0%
中学校	5	23	9	12	2	0	0	100.0%
義務教育学校	1	8	1	6	1	0	0	100.0%
学校計	19	94	33	52	9	0	0	100.0%
幼稚園	7	8	6	0	1	1	0	87.5%

※ 耐震診断の実施(及びその結果の公表)の対象となる建物は、文部科学省により、非木造の2階建以上または延床面積200平方メートル以上のもの、及び木造の3階建以上または延床面積500平方メートル以上の建物と定められています。

☆ 棟別の耐震性能は「学校園棟別耐震性能一覧表」のとおりです。

「耐震性能」の説明

耐震性能区分		各区分の内容	各区分の地震に対する安全性
A	新耐震	新耐震基準(昭和56年6月1日以降の耐震基準)に適合しているもの	大規模な地震の際に被害を受ける可能性が低い
	補強済	耐震診断の結果を踏まえ、耐震補強工事を実施したもの(現行の建築基準法と同等の耐震性能を満たすもの) 耐震補強後のIs値 ≥ 0.7	
	補強不要	耐震診断の結果、新耐震基準と同等の耐震性能を満たすと判定されたもの 耐震一次診断の結果では、Is値 ≥ 0.9 耐震二次診断の結果では、Is値 ≥ 0.7	
B	耐震一次診断の結果では、 $0.9 > \text{Is値} \geq 0.4$ 耐震二次診断の結果では、 $0.7 > \text{Is値} \geq 0.3$	大規模な地震の際に被害を受ける可能性がある	
C	耐震一次診断の結果では、 $0.4 > \text{Is値}$ 耐震二次診断の結果では、 $0.3 > \text{Is値}$	大規模な地震の際に被害を受ける可能性が高い	
(注) ◇大規模な地震とは、震度6強から震度7のものを想定しています。 ◇耐震一次診断は、各階の柱と壁の断面積とその階が支えている建物重量から計算する最も簡易な方法による診断です。 ◇耐震二次診断は、各階の柱と壁の材料強度と鉄筋量等から建物の強さ(耐力)と粘りを推定する方法による診断です。 ◇Is値とは、建物の耐震性能を示す指標で、数値の大きいものほど耐震性能が高くなります。一般的な建物の補強目標はIs値0.6以上とされていますが、学校施設については、建物の重要度を考慮し、補強目標はIs値0.7以上とされています。			